



この国にはな、どうしても基督教を受けつけぬ何かがあったのだ（宣教師フェレイラ）

マーティン・スコセッシ監督
『沈黙～サイレンス～』
(アメリカ映画 2016年)

監督マーティン・スコセッシといえれば、若き日のロバート・デニーロ主演『タクシードライバー』(1976年の)の衝撃が忘れ難い。自身がイタリア移民の力

トリックの審査に育つて、日本で大作だ。しかもアメリカ映画である。歐米人が、このキリスト教の異端の匂いすらする日本の小説をどう読み・解釈し・表現するのか、ボクは大変注目した。何故なら、遠藤は、この小説のなかで、キリスト教という苗は、日本の泥沼の精神風土のなかで腐つてしまふという宣教師の絶望的な呻き、それ

こそが彼を「転ばせた」(棄教)、と描いているのだから。キリスト教圏の欧米人は、この物語をどう受け止めるのか、ボクはずつと気になっていた。

◆
訴訟問題、企画の中止、脚本の書き直しなど)を乗り越えて、様々な困難(制作費、監督は、そんなこと

は意に介さず揺るがない信念を保持して

いるように思われる。音楽やセンチメンタリズムで映像を劇的に盛り上げるような冒頭とラストシーンで、温潤な日本の風土のなかで虫の声だけが聞こえてくるが、劇的

に、表面は仏教徒を装いながらキリスト教の信仰を保持する人々に、表面は仏教徒を装いながらキリスト教の信仰を保持する人々

がいた。彼らを「隠れキリスト」と称す。

この隠れキリストは、常に苛烈な攻撃が仕掛けられた時代が、この映画の舞台なのである。1640年、若きポルトガルの司祭ロドリゴ(アンドレ・ガーフィー

ルド)とガルペ(ア

リュー・ドライヴァー)

ダム・ニーソン)が、長崎の寒村に逃げ、長崎の寒村に逃げ、

り着く。イエズス会の高名な教父であり、

ドリゴへの、救いを

しむ。極貧の暮らしのなかで隠れキリストたちの、司祭ロ

ドリゴへの、救いを

(一 1面がぶつぐる)
この通辞もまた、複雑な造形である。宣教師たちを棄教させたための通辞でありながら、その虚しさを感じる気持ちもどこかにあり、ロドリゴを苦しめつゝ、棄教するな!—という捨て鉢な思いもある。しかし、浅野の演技は、その陰影を演じ切れてはいない。
そして遂に、師であるフェレイラとの再会の場へ。着物を着せられ、「沢野忠庵」と日本名に改めさせられ、日本人妻も与えられたフェレイラとの面会の場は残酷である。棄教は、本当だった。フェレイラの言い訳に、ロドリゴは耳を塞ぎたいと思ふに駆られる。しかし注目をしたいのは、原作では、フェレイラは何度かの「逆さ穴吊りの刑」(頭に髪血しないよう)に耳の後ろに穴をあけ、血が滴るようにして)には耐えたことだ。この残酷な刑には耐えたのである。映画では、どうしてか、このことに触れていない。
では何故、フェレイラは「転んだ」のか。
一つは、貧しい村人たちが苦しんで「踏み絵」を踏み「転んだ」にもかかわらず、フェレイラが棄教しなければ彼らの穴

手り刑は止めないと
脅された」と。貧し
い切支丹たちが苦し
んでいる時、神は
「沈黙」していた。
フェレイラはもう祈
ることが出来なかつ
た。もう一つは、「う
うことだ。
フェレイラは、ロド
リゴに語りかける
この国は、底のない
沼沢地だ。苗はそこ
で根を腐らせ枯れ
いく。基督教という
苗もこの沼沢地では
人々の気付かぬ間に
枯れていった。「切
支丹が亡びたのはな
お前が考えるように
禁制のせいでも、迫
害のせいでもない。
この国にはな、どう
しても基督教を受け
つけぬ何かがあつた
のだ」と。
ロドリゴも「のフェ
レイラの独白」に敗
者の自己欺瞞とは思
えぬ眞実を感じて怯
む。

この「何か」を例
えば丸山眞男のいう
日本の精神風土にあ
る《持続低音として
の「古層」》という
視点から考察するこ
とが出来るかもしれ
ない。主旋律は時代
によつて違う。それ
はたいてい外からの
インパクトである。
簡単にいえば、仏教
と儒教と西洋思想
(キリスト教も含め
て)。この古層は、
体系ではなく断片な

のだけれど、」の断片的な発想は、驚くべく執拗な持続力を持つていて、外から入ってくる体系的な外来思想を変容させ、いわゆる「日本化」させる契機となる、という考え方だ。隠れキリストianの信仰を見て、歐米の力トリックは、これはキリスト教じゃないと叫ぶだらう。しかし、そこに信仰があり、祈りがないはずはない。

フェレイラに圧倒されながら、ロドリゴは、農民たち、ましてや殉教者たち、あの人たちがもし信仰のために死んだのではないかとすれば、それは人間にに対する何と云う冒だろうか、と強く反発する。しかし、そのロドリゴもまた、フェレイラと同じ道を歩むのである。ロドリゴの田の前で、「転んだ」村人たちの六吊りの刑は続く。棄教しない限り、村人たちの呻き声は止まない。フェレイラにも唆されて、遂にロドリゴもまた「踏み絵」を踏むのである。原作、渾身の描写から、『司祭は足をあげた。足に鈍い重い痛みを感じた。それは形だけのことではなかつた。自分は今、自分の生涯の中で最も美しいと思ってきたも

の、最も聖（きよ）らかと信じたもの、最も人間の理想と夢にみたものを踏む。この足の痛み。その時、踏むがいいと銅版のあの人は司祭にむかって言つた。踏むがいい。お前の足の痛さをこの私が一番よく知つている。お前たちの痛さを分つため十字架を背負つたのだ。」ロドリゴは、日本名「岡田三右衛門」として日本人妻を与えられ、生がされた。フェレイラもロドリゴも、年老いて病死した。その仕打ちもまた無残な氣もする。原作に忠実なスコセッシ監督であるが、ラストシーンに彼の独自の解釈が入る。死して後、日本式に棺桶に入れられたロドリゴの手に、妻が監視の目を盗んで十字架を握らせたのである。このシーンは原作はない。『浮城物語』と向き合ってきたスコセッシ監督の二〇〇六年の思索の集成が、このシーンに凝縮されている。

あるのだろうけれど
ポルトガルの宣教師たちが當時英語を使つたとは思えない。当
時彼らが、どれほど日本語や日本の生活習慣を熱心に深く理解しようとしていたかは、今日に伝わる
1603年刊行ポルトガル語『日葡辞典』(岩波書店)の驚くべき質の高さを見れば明らかである。それよりも、通辞はともかく、貧しい隠れキリストンたちが司祭たちと英語で会話をするというシーンにも違和感がある。とりわけ、キチジローの英語力は、少しイメージが違うのではないか、という思いが消えない。キチジローの強さは、教養的・知的な強さではない。最後まで自分の心を身体的に見詰めている強さなのである。結局、彼は切支丹として死んで行く。彼は読み書きすら出来なかつたろう。窪塚洋介は熟演して、いたが、キチジローではない。ボクならば、神戸浩(『たそがれ清兵衛』の中間役や『学校』など、山田洋次が重用している役者)を起用したな、と思った。五島の方言とポルトガル語のちゃんとぼんやり察とやり取りするキチジローが見たいと思った。(S)

北海道芸術デザイン専門学校（札幌市北区）の「第49回卒業制作展」が、2月2日（木）から5日（日）同校舎で開かれた。産業・マルチメディア、建築、環境の各デザイン科などの学生たちによる卒業作品約二百数十点。産業界の次代

芸術デザイン専門校の卒業制作展



吉田直花「ふくらはし、ふれあい展」

品にいいものが多かつた。面白いのは、まるで本当に新装開店する宣伝なのかと錯覚されるほどアイデムが凝っている点だ。

『猫福茶(ねこふくちや)』は、

坂泰泰さん『知っていますか? 日本の節句』は、節句の紹介を全面の新聞広告でしています。大橋友李佳さん『和菓子と宇宙』は、「わがしやKAGOYA」の和菓子の言葉。例えば、小林美望さんなどのデザインに、思わず、このお菓子屋どこにあるのかな、と見入ってしまう。

吉田百花「ぶんちょう ふれあい展」
アーティスト、フラー、デザイナー、ブックデザイナー、エリーデザインなど多くの作家たちの作品が、絵本、ジム、彩。早川の皆さんによるリアルイラストも感心してしまった。今年大ヒットしたアニメ映画『君の名は。』のリアルイラストでの影響はこれから出できそうだ。
吉田百花さん「ぶんちょう ふれあい展」のチケット・ポスター・葉・ワッペンなど、「文鳥どくし」には思わず笑ってしましました。お見事！

(頭に響血しないよう)耳の後ろに穴をあけ、血が滴るようにして)には耐えたことだ。この残酷な刑には耐えたのである。映画では、どうしてか、このことに触れていない。

この「何か」を例えれば丸山眞男のいう日本の精神風土にある《持続低音としての「古層」》という視点から考察する」とが出来るかもしない。主旋律は時代によって違う。それはたいてい外からのインパクトである。簡単にいえば、仏教と儒教と西洋思想(キリスト教も含めて)。「」の古層は、体系ではなく断片な

の前で、「転んだ」
村人たちの穴吊りの
刑は続く。棄教しな
い限り、村人たちの
呻き声は止まない。
フェレイラにも唆さ
れて、遂に「ドリゴ
もまた「踏み絵」を
踏むのである。原作、
渾身の描写から、
『司祭は足をあげた、
足に鈍い重い痛みを
感じた。それは形だ
けのことではなかっ
た。自分は今、自分
の生涯の中で最も美
しいと思つてきたも

リゴの手に、妻が監視の目を盗んで十字架を握らせたのである。このシーンは原作ではない。『沈黙』と向き合ってきたスコセッシ監督の二〇数年の思索の集成が、このシーンに凝縮されている。

支丹として死んで行く。彼は読み書きする出来なかつたろう。塙塙洋介は熱演して、いたが、キチジローではない。ボクならば、神戸浩（『たそがれ清兵衛』の中間役や『学校』など、山田洋次が重用している役者）を起用したな、と思つた。五島の方言とボルトガル語のちゃんぽんで司祭とやり取りするキチジローが見たいと思った。(S)

芸術デザイナーの卵たちが、学びの集大成としての作品が展示されていて、その直向（ひたむき）さが気持ちいい。去年初めて見た時、デザインの世界に新風を吹き込もうという意欲が、会場

A photograph of a whiteboard or poster. The title "和萬子と宇宙" (Wakako and the Universe) is at the top, with "WAKAKO" in smaller letters below it. The background features several colorful, hand-drawn-style illustrations of celestial bodies, including a large yellow sun-like planet on the left, a blue planet with horizontal stripes in the center, and a green planet with a ring on the right. There are also smaller pink, blue, and orange spheres scattered across the board.

この和菓子屋さん、どこにあるのだろうかと思わせる。大橋友李
菓子工房内・上り

面白いぞ！冬の夜の動物園



2月11日（土）、12日（日）に円山動物園（札幌市中央区）で「冬の夜の動物園」（夜8時まで開園）というイベントが開かれた。早速11日夜、行ってきた。動物園は、子供じゃなくてもワクワクするよね。旭山動物園見学以来数年振りの動物園は楽しかった。しかも、初めて、ライトアップされた冬の夜の動物園というのは、もうそれだけで面白い。親子連れも多かった。動物園にやってきた子どもたちは、もう体内から突き上げるワクワク感に踊るように夢中だった。カッピルや大人の見学者も多くて、でも園内は三々五々のゆとりもあって、風もなく月がカーンと冴えていて、何だか宮澤賢治の世界だな、などと思いながらぶらぶらした。

夜、生き生きとしている動物って結構いるんだね、吃驚した。最初にアムールトラの大きさにのけ反って、ユキヒョウの美しさとしっぽの豊かさに見惚れたり、レッサーパンダの動き回る姿を追い掛けたりと、あっという間だった。園内は積雪も多くて、道は「雪灯りの路」みたいになっていて、動物たちの館に着くと、屋外のスペースにもたっぷり積雪が。その雪上に座って窓越しに寄ってくる巨大なヒグマ（毛並みがいいんだ、こいつが又）の迫力にはくぎ付けになる。

でもなんといつても雪の上では、シンリンオオカミの泰然とした姿が、辺りを払うように美しかった。今も日本列島にひっそりと息づく山岳信仰の「オイヌさま」はニホンオオカミのことだった。オオカミは明治30年代には絶滅したと言われている。でも、13年間北海道山中を逃げ惑った故劉連仁さんは、当別の山林から生還した後、山中でオオカミを見たと証言している。ボクは、劉さんの証言を今でも信じている。(S)



碑を撤去しろと要求するのはありえないことだ。見舞金を出すから、被害を受けた事実と記憶を示すものは自分の眼に入ることころには置くなると加害者がいうようなもので、おそらくいの要求だ。』（前掲書）

二〇一五年二月二八日、突然、日韓両外相は、日本軍「慰安婦」問題に関する「合意」を共同記者発表した。日本政府からの一億円拠出金で、「もう、この問題は解決済みにする」という態度が見え見えの安倍政権に対し、日韓の市民からの怒りの声が高まっている。韓国市民の怒りは、ちゃんとした謝罪もない内容に「合意」した韓国政府にも向かわれている。韓国市民による「少女像」の設置の広がりに、日

◆

本政府は駐韓大使をして、
金山総領事の一時回国と
て、事態は收拾のう
立つていい。
いつたい何が問題
なのか。
韓国で日本語教師
をしていて、長い間
「ナムムの家」(注)
のボランティアとして
活動をしていて、一
時帰国した工藤千尋
さんを招いての緊急
の集いが二月三日
(金) 札幌北光教会
で開かれた。民主的
な課題で旅行・ツアーや

を企画運営していく。「(株)旅システム」友の会が主催した。工藤さんのお話で自身が「ナヌムの家」でハルモニ(韓国語)で祖母、おばあちゃんの意)たちの話を徹底的に聞くことをボランティアで続けているから、彼女の感情の機微を受とめていて、新聞記事やテレビリポートでは分からぬ雲氣が具体的に分かって来る。工藤さんが一時帰国するときも、葉は荒いが気持ちも

込めて送り出して
れもする。ハルモ
たちと工藤さんと
信頼関係は深いこ
が分かる。

情である。ハルモ
たちは、日本政府
「謝罪していない
ということを見破
っている。この点が
事だ。工藤さんの
話を伺っていて、一
く分かったのは、二
韓両政府のやり取
り形だけ「謝罪」

日本政府が拠出する十億円が、支援ではなく、賠償あるいは「償い金」でなければ、軍の責任（たがつ）と政府の責任（を認めたこと）にならう。しかし日本政府は絶対に償金だと言わない責任の所在を曖昧（あいまい）したまま払うとい 支援金（じげんきん）といつたいどういうの金なのか。

いうのは被害者の
りを賣うだけでも
「最終的かつ不可
的に解決され」た
ということができる
のは、被書者だけ
あるはずだ。》
見義明「眞の解決
逆行する日韓『日露
『世界』二〇一六
三月号)

(注) 「ナヌムの」
日本軍「慰安婦」被害女
いる空間、それが「ナヌム

をもとにソウル市内に「ナムリ」を設立。一九九五年には土井義久により京畿道広州市に移転。年からは社会福祉法人として運営されています。

日々の訪問者たちと豊かな
余生を送っています。現在
二三八人が被害申告をし、
(五月現在) が生存されてお
るハルモニたちが現在九名
生きている歴史、ハルモニた
ちの家です。

日本軍『慰安婦』問題は解決したのか?
「一ナヌムの家」ボランティア
工藤千秋さんに聞く



奥の中央が工藤千秋さん

見せても、それは
「私たちに謝った二
二たちには頑として
ある」と云つてだつた。
た。

あるだろう。カネ
煩を叩いて、いつ
でもゴチャゴチャ
うな、という安倍
権の態度は恥ずか
い。《加害者側が謝
罪はこれで終わり

(注) 「ナヌムの家」とは

日本軍「慰安婦」被害女性が共同生活をしている空間、それが「ナヌム（分かち合い）の家」です。一九九二年佛教界を中心に集まった募金をもとにソウル市内に「ナヌムの家」が作られました。一九九五年には土地と建物の無償協力により京畿道広州市に移転しました。二〇〇〇年からは社会福祉法人として支援者からの後援によって運営されています。

高齢になったハルモニたちは、ナヌムの家で日々の訪問者たちと豊かな自然に囲まれながら余生を送っています。現在までに韓国国内では二三八人が被害申告をし、四四名（二〇一六年五月現在）が生存しております。平均九〇歳のハルモニたちが現在九名暮らしています。生きている歴史、ハルモニたちの安息の場所がナヌムの家です。

大澤勉水彩画個展

1月11日～31日／当別町赤レンガふれあい倉庫



大澤勉「晴冷寒風」(F6号)

(大澤さんのコメント～金沢橋のたもとから当別高校を望む位置。この付近は、絵になるスポットが多いです。)

当別町在住の孤高の水彩画家大澤勉さんの水彩画展が開かれた。当別町ふれあい倉庫が主催している。

新作数点を含む18点の小さな水彩画展である。こじんまりした会場に入ると、空気感が違う。東京から千歳に降りると、ああ北海道の空気は違うな、と感じるが、そこから当別に来るとさらに一段と、その違いを感じることが多いが、この会場の空気感はそれにも似ている。

すべてが、当別の風景を描いた作品というせいもあるが、当別という地の風土が、「農民」の目からもう一度「画家」の目を通して描かれる。ここが大事だ。当別の四季の風景に対する全肯定があって、清潔な筆のタッチと相俟って、会場に爽やかな風が流れる。「木漏れ日の森」や「梶包ロールのある風景」などが印象に残る。

ただ、見慣れた景色の描写の確かな技法の長い蓄積の上に立った、もうひとつの地平、「見えないもの」や時の遠近法などを追求すべき課題も段々と見えてきているのではないだろうか。

小品ながら、「黄昏刻」が底光りしていて良かった。(S)

二月一〇日（金）札幌市教育文化会館で植村裁判（注）の報告と、元朝日新聞記者外岡秀俊さんの講演会が開かれた。裁判での、原告側弁護士らの気魄の弁論の勢いそのまま、活気溢れた集いとなつた。

次回からは、「第二段階」の「では名誉棄権は許されるのか」に入った。勿論、櫻井氏らの名誉棄権表現は免責されない。

櫻井氏ら被告は、「捏造」批判が「眞実」であることを証明しなければならなくなつた、との報告があつた。

その後、植村隆さんが近況の報告をお信勝弁護士から報告があった。櫻井よしこ氏の表現は名譽棄損に当たるか否かについての論戦では、「名譽棄損はある」という（第一段階）が今日で終わつた。

この日開かれた札幌訴訟第六回頭弁論について、小野寺信勝弁護士から報告があつた。櫻井よしこ氏の表現は名譽棄損に当たるか否かに被告側を論破して「名譽棄損はある」という（第一段階）が今日で終わつた。

この日開かれた札幌訴訟第六回頭弁論について、小野寺信勝弁護士から報告があつた。櫻井よしこ氏の表現は名譽棄損に当たるか否かに被告側を論破して「名譽棄損はある」という（第一段階）が今日で終わつた。

この日開かれた札幌訴訟第六回頭弁論について、小野寺信勝弁護士から報告があつた。櫻井よしこ氏の表現は名譽棄損に当たるか否かに被告側を論破して「名譽棄損はある」という（第一段階）が今日で終わつた。

この日開かれた札幌訴訟第六回頭弁論について、小野寺信勝弁護士から報告があつた。櫻井よしこ氏の表現は名譽棄損に当たるか否かに被告側を論破して「名譽棄損はある」という（第一段階）が今日で終わつた。

この日開かれた札幌訴訟第六回頭弁論について、小野寺信勝弁護士から報告があつた。櫻井よしこ氏の表現は名譽棄損に当たるか否かに被告側を論破して「名譽棄損はある」という（第一段階）が今日で終わつた。

この日開かれた札幌訴訟第六回頭弁論について、小野寺信勝弁護士から報告があつた。櫻井よしこ氏の表現は名譽棄損に当たるか否かに被告側を論破して「名譽棄損はある」という（第一段階）が今日で終わつた。

この日開かれた札幌訴訟第六回頭弁論について、小野寺信勝弁護士から報告があつた。櫻井よしこ氏の表現は名譽棄損に当たるか否かに被告側を論破して「名譽棄損はある」という（第一段階）が今日で終わつた。

植村隆、パワー・アツブして、いたぞ！

（注）「植村裁判」とは

ジャーナリスト櫻井よしこ氏と西岡力東京基督教大学教授は、朝日新聞記者だった植村隆さんが1991年に従軍「慰安婦」について書いた記事を「捏造」と決めつけ、2014年2月頃から週刊誌やネットで誹謗中傷を繰り返しました。そのため植村さんは当時内定していた大学への教授就任を断られ、さらに自身だけではなく非常勤講師を務める北星学園大学と家族も脅迫メールやネット書き込みなど激しいバッシング被害を受けました。植村さんは「私は捏ねた記者ではない」と訴え、2015年1月に両氏と出版4社に対し内定していなかった大学への教授就任を拒否する決議を起こしました。東京地裁と札幌地裁で裁判闘争は続いているとあります。

個人的信条へのアビールの方がより影響力があるような状況」を指す言葉だと述べた。

ボクは、安倍首相が福島第1原発の状況を「アンダーコントロール（統御）」されていると真っ赤なウソを述べたり、安倍氏などの真っ赤なウソもそのまま受け取られている風潮がある。権力はウソを吐いたりする報道出来的体制になつて完膚なきまでに曾根綾子や元軍人らを論破して裁判に勝つが、彼らの陰湿な攻撃は止まない。

市民らの根強い支援もあつたなかで大江は言葉の専門家として完膚なきまでに曾根綾子や元軍人らを弾圧の嵐が吹き荒れが、彼らの陰湿な攻撃は止まない。日本も対岸の火事ではない。植村裁判は、そのせめぎ合いの象徴でもある、という指摘だ。

この裁判を、我々市民は注視していくが、外岡氏がこの日の講演へ「トランプ現象とメディア」）で強調していたことは、その急先鋒が菅野綾子。今回の植村隆人身攻撃の櫻井よしこと同じ構図だ。沖縄二紙の強力なキャリアが正念場を迎えているという点だ。アメリカでは「第二のマッカーシズム

コラム2017②

ポスト真実とは

「ポスト真実」というのは、事実に基づかないウソと偽りの政治言葉のこと。

ただの嘘つきではあります。英オックスフォード辞典が昨年の年間の世界の言葉に「ポスト・リース（ポスト・リース）」を選びました。同辞典は、

それを支えているのが、ニュースの受

けとめ方の変化だろう。事実調査の裏付けに記者たちが苦心

した取材による新聞紙面などから知るという形が薄れ、個人的な趣味や感覚が近づかないウソと偽りの政治言葉のこと。

ただの嘘つきではありません。英オックスフォード辞典が昨年の年間の世界の言葉に「ポスト・リース（ポスト・リース）」を選びました。同辞典は、

それを支えているのが、ニュースの受

けとめ方の変化だろう。事実調査の裏付けに記者たちが苦心

した取材による新聞紙面などから知るという形が薄れ、個人的な趣味や感覚が近づかないウソと偽りの政治言葉のこと。

ただの嘘つきではありません。英オックスフォード辞典が昨年の年間の世界の言葉に「ポスト・リース（ポスト・リース）」を選び

ます。それは、ニュースの受

けとめ方の変化だろう。事実調査の裏付けに記者たちが苦心

した取材による新聞紙面などから知る

ます。それは、ニュースの受

けとめ方の変化だろう。事実調査の裏付けに記者たちが苦心

した取材による新聞紙面などから知る

ます。それは、ニュースの受

けとめ方の変化だろう。事実調査の裏付けに記者たちが苦心

した取材による新聞紙面などから知る

ます。それは、ニュースの受

けとめ方の変化だろう。事実調査の裏付けに記者たちが苦心

した取材による新聞紙面などから知る

ます。それは、ニュースの受